

昭和二十六年六月一日發行（毎月一回一日發行）第一卷第一號



# 石城文化

創刊號



たのしい私たちの郷土雜誌

¥20

本號執筆者

菅日渡壺高比小高吉山志恵井石山沼松遠黒大砂金小野  
田野邊田佐野瀬屋崎原坂森森田田藤河押成田崎  
利何は榮姓勝貞守猪浩山正一美心之一與キ吉満  
甫春鳴敏江一廣男一善義夫三人一夫枝光助郎一ミ治藏



## こ と ば

なんとといふ麗かな朝だらうよ  
娘達の一塊がみちばたで  
うれしさうにわらつてゐる  
そこだけが  
馬鹿に明るい  
だれもかれもそこをとほるのが  
まぶしさうにみえる

これは今から三十数年前平に住んでいた詩人山村暮鳥の  
朝とゆう作品ですが、三十年後のいまも『なんとゆう麗  
かな朝だらうよ』と思はず朝の大氣を呼吸出来る季節が  
参りました。すがすがしい氣持とゆうものは私達の日常  
生活をよりよく運んでくれるものではないでしょうか。  
私達の現實が敗戦後の歴史の中であえいで居てもこの朝  
の大氣を呼吸するときふと『ああもつと美しい生き方を  
しよう』と誰もが考えることではないかと思うのです。  
そうしてそれとともに私達の生活が機械文明の進歩にお  
とらない文化生活とならなければならぬとゆうはけし  
い意慾に燃えるのはあながち私一人ではないと思うので  
す。

『なんとゆう麗かな』生活——そういった生活を心がけ  
ようではありませんか。

## 整 形 外 科

胃 腸 科 ・ 外 科  
..... 放 射 線 科 .....

# 竹 林 病 院

平市十五丁目十三番地(舊平病院)電話811番608番

①

文具と書籍  
洋 書 材 料

## 魁文堂書店

平市極通小路  
電話313番

トケイ  
眼鏡・萬年筆  
山崎時計店

平市5丁目電991

## 夏のプリント服地

磯浪印本染浴衣

いつも正しい値段は  
安心して信用されます



## 川 又

平市白銀町  
電平523

## 目 次

こ と ば ..... (1)

文化言.....野崎滿藏・小田吉治・金成キミ・砂押興一(2)

### 私の信條

大河内一郎・黒田吉之助・松田美枝 (3)

沼田一夫・山森正一・遠藤心光

石城の傳説蛇岸淵.....石 森 山 人(8)

性知識(井坂浩三)(8)スクリーン(惠原猪萬夫)(7)

酒談義(志趣守義)(6)私の好きな和服(山崎喜)(11)

隨 筆 平 の 昔 話 り:吉屋貞一(4)

人物評 久太郎さんごゆう人:高瀬勝男(6)

帳 男性から 小野姓廣 女性から 高田はな江

注 女性へ 比佐榮一 男性へ 樋 谷 敏 (4)

さ つ き 野(句).....渡邊何鳴(2)

殘されたもの(詩).....日野利春(4)

小 説 遠 眼 近 視.....菅 田 甫(10)

編 集 手 帳.....(12)



## 御旅館

# 古 里

平市古鍛冶町  
電平五七七

パンは

市川に限る

新刊書籍・雑誌  
バイロツト万年筆

平市土橋通り

## 西澤書店

リズム  
シルバ  
ミシン  
其他有名品  
現金・月賦販賣

### 三浦商會

平市平和通 電八六四

電氣通信管理所  
郵政省指定  
旅館 金田

平驛前通  
電話 平六三五

書籍・雑誌  
一番揃って居る店

ヤマニ書房

平驛前 電話777

### 野崎満藏

祖國の發展は産業の如何によつて決定されるものであるが産業の開發は先づ交通運輸にまたねばならぬこと申すまでもないことである。それによつてのみ産業文化の交流はなされていく。交通會社は營利會社ではあるが又大きな公共的事業でもあるので私は當地のために全力をそそいでいるわけである。平市内には又映画館が出來て娛樂としては充分と思うが唯青少年を指導する高尚な遊樂場のないことは遺憾である。パチンコ屋は増強し市内で二十五ヶ所もあり何れも店頭は超満員、演劇も眞に向うするべきものも見當らず流行歌に至つては嫌惡を感じるものさあるが道義心の頽廢を少しでも善導する喜ばしいものとして私は何人かを問はず諸曲をすゝめたい。諸曲は

精神的にも保健的にもよい娛樂であり教養を豊にしてくれるからである。尙將來は大學を設置したり外來客誘導の爲の會館（東北に誘う會館で商品陳列場を整備する）等が出來れば濱や炭田の文化もより高度なものとなるだろう。

（當務交通自動車K社社長）

小田吉治

私は學校を知らない。全く自學

自習で一通りの読み書きは出來るが難しい言葉は何も知らない。従つて雑誌に何か書くなんて云ふこ

### さつき野

渡邊何鳴

五月野のかげ聴診の胸に満つ  
麥は穂におとめの乳房はふくやかに

ふ言葉が此の社會になかったもので。炭礦從業員の子弟が小學校に入り中學校に通ひ、高等專門學校を卒業する様になつて初めて文明開化の風が炭礦にも吹き込んで來たと云つてよいでしょう。かく云ふ小生などはごく最近孫達の話を聞いてなるほどなあと思ひ改めて炭礦の生活を見つと映画を見、本を讀み、音楽を聞き、運動をやつて從業員が如何にも生活を樂しんで居りまして、昔の酒と喧嘩と賭博とは何時の間にかなくなつて居りました。

（岡田川鎮業K社社長）

金成キミ

婦人會が文化生活の爲に活動を開始した等と云う事を私達に常に度々見たりきいたりする事であるが何時も宙に浮いたような感じである。どうしてだろう。近頃未亡人會の仕事に専念して、生活の爲に苦勞している會員諸姉と共に自分の生活を見つめた時に、食べる爲に子供を育てる爲に苦悶の一日一日を送る會員を見る時にその感を深くするのである。そうかと云つて私の考へている文化を日常の生活から差引いてしまつてよいとは決して思つていない。眞剣に文化運動に動く人ばある使命感をもつて氣長に動いたら本當の意味の文化運動になるのぢやないかと思つている。地方文化の爲の『石城文化』も本當に長く續いてこそ意義

よべの雲解れけむえごの花濡れて  
鳥の子松のあらしに目覺めけむ  
子鳥に天の松かぜ夜もすさぶ

があると思う。そして一番考えさせられることは文化が生活とけ合つたものであるとゆう事である。私はしみじみとそつと身近な文化をほしいと思ふ。すでに文化生活は否定出來ないことだしこれをなにより以上實質的なものにするために『石城文化』の發刊なども一つの力を持つ運動で編集者の根強い力量を期待するわけである。

（家裁平支部調停委員）

私が現在の家に移轉して來た當

時は町外れであり、三々伍々家が点在している状態であつたが、僅か一年そこ／＼の間に、文化住宅がごん／＼建ち並び、遠次町の姿勢を取りつゝある。誰れが家を建てたとか、どこそこで店を造つたとか、そう云う話題がしばしば聞かれる。實際この町では、競争で豪華な邸宅を構えるしきたりがある。そして、その美邸に住む人の代名詞が、偉いと云う事であり、成功者と云う事になるらしい。だから偉くなり成功者になる爲には先ず金を持たなければならぬ。

（小名濱港灣K社業務課長）

常に流行の尖端を行く

### いづみやの

小間物化粧品と袋物

平驛前 いづみや

電話三四八

クスリは

堀藥局

平二丁目 電話326

初夏のお惣菜は  
新鮮なハムサラダを！

神戸牛・ハム  
ソーセイヂ其の他食料品

東京日本畜産K社代理店

精肉とお惣菜

マルサ

平銀座通 二七一番

## 残るもの

日野利春

夢をみてゐたようだ。

實際は勿論みたこともないのだが、たしかに金色堂、秀衡の首が、固い小さな顔がひとつ石棺の中にころがってゐて――

それだけで安心すれば出来るのだが、私は少しづつ不氣味になつていつた。

夜明けは寒く、蛾のかたちをした指がふところの中にはとまつてゐる。

そこで鼻みづをすすり、ひどく古い剣をとつて

私 の 信 條

大河内 一郎(平市民生委員、醫師)

灯の如く。

己れの身を焦してあたりを照すともしびの如く、ありのままを示して、人をも己れをも照したい。クリストに倣いて。

松田 美枝(小名濱町婦人會長)

一、人事を盡して天命を待つ心の心をもつて、信じた事はやり通す。

二、時間と努力の奉仕を惜しまない。

沼田 一夫(内郷町長)

『雪の日やあれも人の子たる拾い』

遠藤 心光(少年保護司)

正法を聴くに因有り、謂はく善友に近くなり。善友に近くに因あり、謂はく信心なり。信心を起すに二因有り謂はく法を聴くと義を思惟するとなり

山 森 正一(石城文協會長、家裁調停委員)

一般人の教養を高めるための運動に挺身したい。

黒田吉之助(平第一小學校長)

『己が子を恵む心を法とせば』

學ばずとも道に至らん』

私 の 信 條

注 文 帳

〇〇〇女性から男性へ〇〇〇

高田はな江(看護婦)

改つて注文と云うものを持ちません。性の別こそあれ、今男性に求めんとするものは亦、自分への注文でもあるからです。強いて云うなら人間らしくと。

鹽谷 敏(教育石城出張所主事)

近代的な要求の一つとして是非ともお願いしたい事は社會人としてのエチケットを心から自分のものに出来る人になつてほしい。

〇〇〇男性から女性へ〇〇〇

比佐 榮一(旅館主)

顔の美しさではなくて教養から来るもの――心の豊かさの表われた人。そうした人は年老いても非常に感じがよい。又一日も早くアプレ型から脱却すること。

小野 姓 廣(新聞記者)

瞳の澄んだ人。瞳の澄まない女は何處か不潔な感じがするし安心出来ない。美しく瞳を澄ませよ。

注 文 帳

## 平の昔語り

吉屋 貞一

五月の陽ざし豊かな、ある日のこと、街を歩いてゆく八十五歳の神谷老人に遇つた。宗匠頭布の下にエビス顔で白い髭が風にゆれる。お互にヤアと聲を掛けながら『ごうです、平の昔を語る座談會でも開きましようか』と誘いをかけると『昔なら、わたしが一番知つてゐる方だろう』『なるほごね、それにして、明らかな話に限るな』『花時に來るかと思つてたよ』『いや今年は雨と風の標でしたれ、花見には出かけませんでした』『今つづじが満開だよ來たらどうです』『有難う』というような立話で別れた。

神谷さんは其昔、平銀行支配人として勤続し無くてはならぬ經濟人で温厚な人柄は相當に買われたものである。それで趣味もあり、理想も抱いて、國字の改良を若い頃から研究を始め、昭和三年五月には、速記文字のような新國字を發案して、明昭文字の冊子と出版しながら更に自費を投じて月刊『昭和文字』を創始するなど、文化都市建設の呼び聲高い時に忘れ得ぬ人々の一人である。創意と工夫を以つて文化平市が發展して欲しいものだ。昔から私塾として歴史のある諸賢學舎とか平陽、藤田の兩女學校が廢校になつたことは残念な氣がする。圖書館も昔は青年團の盡力で第一小學の一隅に平圖書館を設けたと聞いて

人物評

## 久太郎さん

いう人

高瀬勝男

太つて居るから、小生の如き小人物と比べてたしかに大人物だ。

久太郎さんは人も知る釜屋の御主人であり、地方経済界の立役者であり、嘗ては貴族院議員の肩書をもった政治家でもあり目下は平市長さんにおさまつて居る。ゆくところ天下、國家に乃公出でざれば風貌、的を對するに實に名對手、忽ち運の開ける徳人だ。『坊ちゃん』から若旦那、そして市長さん。根が商業人だ。苦學力行立志傳中の方でなく釜屋さんの御曹子で育ちあがつた旦那衆だ。

遊ぶことも呑むことも人後に墜ちない時期を過してきて今更色懺悔でもなからうと世間並の茶のみ話も出来る。極く平凡な人柄だ。釜屋さんといへば東北きつての大店。久太郎さんといへばれつといた平の新市長。商業で會う人、御世辭を謂ひにゆく人、なんと多いが誰もが豪腹で、秘密で、明朗で、密達で何々と世評も讃辭を傾けるが、商業人がルーズで陰んでしまひなしては大商店の經營は出来なからう。こころよく遣つて儲を積むのが理財のコツだ。結局釜屋商店の日々隆昌

## ……酒と人生……

蜂西國主人述

人生に酒がなかつたらどんなに淋しいことだらう。酒は今や人生に缺くことの出来ない要素となつてゐる。冠婚葬祭には必ず酒が伴つてゐる。人と酒とは不測不離の關係を持つてゐるにもかゝらず、文化の進んだ近世に入つてから酒の害毒が高唱され、禁酒を説く者があり、先年北米合衆國で禁酒令が施行され盛場は火の消えたやうになつたと云われる。表面ではその法律に従つてゐる爲に厳重取締を勵行したといふが裏面では殆ど公然とその禁令に反し飲酒を續けたといふことである。それ故政府でも輿論に屈し遂にその禁令を撤回するの餘儀なきに至つたといふ。折しもが生きるというものは生命を保つてゐるだけではない。この世に生を受けた以上何か人類の爲に貢献することがなければならぬ。人の命には限りがある。生きたし生ける者、誰か生命に執着を持たない者があろうか。然も哀しむべし、大多數の人々は七、八十歳で世を去つてゐるが現實である。永遠の生命は宗教上の觀念である。精神上左様な觀念を抱くことは可能であり、又之を信すること防止することは出来ない。そこで人の命數を八十歳とみて成年に達してから算すれば、僅かに六十歳に過ぎない。その短期間の中に酒を飲むべきか禁酒をなすべきかと考へて見るとき禁酒可なりと右極する愚人はないと思ふ。素より病人や虚弱の人が酒を避けることは當然であり、又リミットを越して飲酒することは酒ばかりでなく何でも害がある。之等は例外である。日本酒の沿革を顧みると昔の酒は濁酒であつた。その發祥は神代にさかのぼる。清酒が発見されたのは足利時代と云われ河内の或醸造家の杜氏が解雇されてその家を去る時腹いせにその濁酒の醸造樽に灰を投入して去つた。雇主はそれを氣付かず時を経て濁酒の上層部が澄んでゐるのを發見し、左様にして清酒が見出されたといふ。

は久太郎さんのもつてうまれた資質のしからしむるもので、カケヒキの上手も天性又むべなるかなだ。加えて弟の元三郎さんが圓満に店を守つてゐるから一層味が出るので、久太郎さんが公職をひき上げてどこへでも氣樂にゆく。ゆけば何々會長さんより、釜屋の旦那さんだ。

酒が人類に必要であることは古來通綿として傳承された事實から見て疑いないところであり、適者生存の進化の法則に協するものであることも首肯し得るところである。その功罪を論ずれば俄に判定し難いが古來和歌や俳句に詩にうたわれ、人生をうるおし、豊かにしてきた功績は忘れ難いところである。或人は酒はよくすりである、酒はたしなむべきものである、酒は快く酔ふべきものであると云つて、酔體を失したり、己を忘れていいものではなうと云つて、論語の『酒無量不及亂』という言葉は味うべき言葉であつて酒道の本領とも云ふべき名言であると思ふ。(著者は地蔵平支部長)

## ◇映画の観方◇

興業者の立場から

惠原猪萬夫

制限された紙數で端的に「情婦マノン」のラストシーンがよりフランス的表現かアメリカ的表現かといふならば後者である。私は云ひたい、夏という季節がくれば寒い日でも無理して夏姿でいなければならぬと思ふ、日本人獨得の性格からも判斷して分る様にマノンのラストシーンが最も勝れたフランス的表現である。夏という季節がくれば寒い日でも無理して夏姿でいなければならぬと思ふ、日本人獨得の性格からも判斷して分る様にマノンのラストシーンが最も勝れたフランス的表現である。夏という季節がくれば寒い日でも無理して夏姿でいなければならぬと思ふ、日本人獨得の性格からも判斷して分る様にマノンのラストシーンが最も勝れたフランス的表現である。

制限された紙數で端的に「情婦マノン」のラストシーンがよりフランス的表現かアメリカ的表現かといふならば後者である。私は云ひたい、夏という季節がくれば寒い日でも無理して夏姿でいなければならぬと思ふ、日本人獨得の性格からも判斷して分る様にマノンのラストシーンが最も勝れたフランス的表現である。夏という季節がくれば寒い日でも無理して夏姿でいなければならぬと思ふ、日本人獨得の性格からも判斷して分る様にマノンのラストシーンが最も勝れたフランス的表現である。

（第二イワキ館主）

音楽は文化の道標  
ピアノ・オルガン・樂譜  
文部省指定教育樂器取扱店  
**キクヤ樂器店**  
平市二丁目角

**平生活協同組合**  
平市南町 電1084

……キリトリ線……  
自家製造販賣  
**菓子のかくら家**  
平市二丁目平和通  
此の券持参の方に一割引  
……キリトリ線……

パーマと  
美顔  
着附  
みやこ  
(長谷川化粧院)  
平四丁目電一五六

髪油・化粧品・小間物  
安く賣る店  
**平野屋**  
平市一丁目二四

眼科  
**木村醫院**  
平市南町  
平郵便局裏  
電平316

タンス家具ノ  
御用命ハ  
是非  
**伊東家具店**  
平市新川町

石城の傳説

## 蛇岸淵 石森山人

好間川が中川原で曲つてゐる所に蛇岸淵と呼ばれてゐる深い淵がある。昔、そのあたりに一軒の豊かな農家があつた。(今でも云い傳へられた家は續いてゐる)ある時その家の娘が淵尻で一心に洗濯をしてゐると、どこからともなく眉目かたちの美しい若衆があらわれ娘に近づいた。娘は男に誘われるままに我を忘れてその後に従つた。

娘を失つて悲歎に暮れた一家は、その後幾日待つても歸つてくる氣配もなく、何處を探しても着物の片袖も見付けることが出来なかつた。仕方なく、娘がいなくなつた日を命日と定め、思いあきらめてせめてもの供養をした。ところが數年後の、丁度命日に當る日、しめやかな法要の最中に、何かしら包みものを抱えた行者のような風態のものが頻うなだれて入つて來たのである。それをみつけた家人はこれこそ娘だと顔を見ておどろき、幾年ぶりの再會に涙を流してよろこんだ。娘は今までのいろいろの出來事や、絶對に守らねばならない事柄などくわしく物語りして、決して私が家へ戻つてきたとゆうことを他にももらしてくるなど強く念を押して再び何處へか姿を消してしまつた。その時自分は龍宮の使者であつて、今は生家のものではなく機織姫なのである。と云つて土産の品々を差出した。それは機織姫が一針三拜して縫ひ上げた二十五條の連の緋衣、拂子、水晶の球數等であつた。その後長年その農家に龍肉、龍爪の骨舍利と共に家寶として秘藏してあつたが、俗家の祟りを恐れて寺僧に頼んでそれらを寺に納めた。此の寺が内の草に建てられた龍門寺であると云うことである。今はその寺跡を寺入又山門の跡を山門平と呼ばれてゐる。尙この寺は應永のころ磐城公が荒川へ新しく龍門寺を造營した後朽ちたものと云われてゐる。このいわれから龍門寺住職

## 避妊の現實

井坂浩三

産兒制限是非論にかかわらず、わが國の戦後出生率は毎年百七十五万人以上であり、八千五百万の人口は十年を経ずして一億を越える、適度人口六千万といふわが國にこの驚異的増殖の結果は如何、狭い國土に重なり合つて生きて行かればならないと思ふのは、愚かな妄想であらうか、樂あれば苦あり、苦あれば苦ありの異常な教訓を生活の中に實感する人々が、現に避妊を實行し、また實行に望んでゐることは事實である、ところで避妊の方法及びその効果は如何、男女相離れてゐる以外に絶對的避妊法はない、有名な荻野氏による受胎調節も絶對的ではない、月經周期は實際には甚しく動搖するものが多く、また精子の生存期間に就いても今日尙異説があるから、しかし月經が比較的規則的な場合には利用すべき最良の方法のひとつである、現在ひとつの方法のみですべての條件を満足させるものはないから、荻野氏法を參考にしてコンドーム或はベツサリーに避妊薬を併用するのがよい、コンドームは性慾が云々されるが、可成り確實なものであり、射精直前の使用などその一法である、ベツサリーは自分で挿入しても伸々うまくゆかないことが多いので、専門家の指導を受ける必要がある、避妊薬はいづれの形のものでも出来るだけ陰腔深く、

の交る毎に今でもその農家を訪れ、又、その家でも代々の相續人が龍門寺を訪問するならわしになつてゐると云うことであつて、現に昭和十年荒川龍門寺住職片岡正龍大師青雲院住職を從えてその家を訪ね、蛇岸淵で法要を營んだのである。その後、好間川の洪水で多くの家や田畑が流され沿岸の人々が苦しむことが度々あつても、娘の生家だけはどんな大洪水にも一度も水浸しになることもなく現在に至るまで洪水の出る度に水で米の粉を練り團子をつくつて皆戸氏神である娘の靈水神宮に供えるならわしになつてゐる。又雨乞としては明治の半ば頃まで非常に早ばつが多く農民が降雨を祈る時その度に荒川龍門寺の住職が古例の格式に則り數千の蓑笠を持つた農民を從え蛇岸淵に來て雨乞をして郷土を潤ほした所である。今は川の位置が變つて水が浅くなり昔の俤もしのびがたい程になつてゐる。

x x x

又別の一説に次のような昔ばなしがある。

蛇岸淵の大蛇はその後美しい女に化けて旅の僧を懸想し、僧が修業のさまたけになるからと必死で避けるのを衣にすがり何處までも追ひ求めて轉々と居どころを變えて同棲をつづけていたが、人の眼につくのを恐れて蛇岸淵の裏山にある川堀穴にかくれ住むようになった。この事がいつかお上に聞え、時の領主が檢使を派遣して取しらべ、僧侶としてあるまじきことと、その不行跡を責め立てたところ、かたわらの美女が忽ち正体をあらわして大蛇となり檢使を追いかけた。檢使が驚きあわてて矢を放つた。その一つは當らず、二度目にようやく大蛇を射止めた。此所を『羽龍』と云い、空矢のおちた所を『天下』と云つて今も尙その地名は残つてゐるのである。

## 山吉屋 洋服店

平市四丁目  
電話二六八



カメラと材料  
現像、焼付、引伸

## 田中寫眞機店

平三丁目 電話576

皆様の健康を守る

イチシーシ  
1CC  
(144)

## 小野屋藥局

平四丁目 電話144番



# 小説 遠眼近視

菅 田 甫

ここ数年、下手な小説を書いて来たが、それがせいであつたのあがらない私に、最近、眼だけは鋭くなつたと妻が云い出した。しかし、冗談ではなしに、事實これでは無頼の眼だと鏡に寫す。あいつを見つて次第、ふん縛つてやるんだ。ところで、私の眼は、視力がとみに失せて来て遠景をさだかに見えないのである。南方へ征つていた頃、それとは氣づかず、敵の姿を発見するのに苦勞した。終戦二年前、私は胸部疾患で母國へ送られた。たま／＼一緒にゐた補充兵の眼科醫が、私に眼鏡をかけることを奨めたのである。その後、眼鏡をかけなくとも不自由な生活から眼鏡のことを私はすっかり忘れて了つていた。

四五日前の朝のことだつた。壇徒である私のところへ、お寺から左のような「お知らせ」が届いた。

## 「お知らせ」

昨三月十四日、世話人会に於て協議決定した事項のお知らせをします。御協力をお願いします。

## 一、佛具購入の件

戦争中、佛具を供出してしまい、現在所有せる物は、瀬戸で出来ていますので、金具の物を買入れたいとの申出あり、購入いたします。購入する佛具は五具足といつて

蠟燭立一對と花瓶一對と香爐で金高は九千五百圓程度です。

## 一、位牌堂造築に関する件

前年の颱風被害による屋根の一部修理と本堂の脇に位牌堂（二坪）を造築したいと思ひます。見積金高は約六萬圓です。

午後になつて、世話人と稱する三人組の男が、早手廻しなことは寄進帖を持参して、二千圓あなたの先祖のためだからといつて要求し出した。まさか、先祖のためとあつては、腹も立てられなかつた。しかし、私の心に残つたことはその要求の仕方が、今流行の労働者の交渉みたいなところに厭な

農機具・金物  
**丸重商會**  
平市四丁目 電話971

勉強だと評判の店  
洋服・既製服  
革カバン・洋品  
**鈴木勸氏商店**  
平市平和通 電話732

**大平屋藥店**  
平市一丁目 電話642

ゆうと、彼が上つた娼家の女が同じ壇徒であつたところから一晩中、お經入りで女にかかつていたと話した。しかし、私はその日、信者とゆう者は、得て、自分にだけそれを信じて人を省みることのない善良さに、一すうたれたのだつた。思へばこつちこそバカな話である。

近頃は腹の立つことばかりが多い。これも二十日ばかり前のことである。朝、××神社のお札だといつて、拾圓で一枚四つ切の半紙に木版で家内安全と捺したのを、玄關先へ置いて行つた男があつた。今年四つになる女の子が、それを拾つて奥へ戻つて来た。（と子供は云うのであるが）

これと同じことが、前にも一度あつたような氣がする。しかし、その一度はどうしても思い出せないのだが——その日は復員の際、ジャバから私が大事にして持つて歸つたコードバンのラバソール靴を、履いて出るつもりで玄關の隅に置いたのをまんまと盗み去られたのだつた、無論、加害者は、お札賣りである。加害者は古風な私にラバソール靴は不向きだとゆう論議のもとに盗んだのではないであらうが、私としては、古風だからこそ、新しいとゆうダンディズムで、かと思つて昨日までは靴箱に入れて棚の上にあけて置いていたものを春に浮かれて出したのだつた。そのダンディズムも今となつては土つかずのまま盗まれて見ると、全く人を見たら泥棒としか思えなくなつた。そして、をさをさ猜疑と警戒を怠りなかつたから、勢い、眼にも鋭さが加はつたのであろうか。それはお經やの眼鏡屋にも云はれたことで

「遠くが見えないのだ」と云うと  
「近くを見過ぎるのだ」と彼は上目使いに私を見た。そし

思いがつきまとつた。私達が金を出さなければ、どうしてお寺は喰つていくのだとゆうのである。三人の男のうち一人は街の眼鏡屋だとゆうことだつた。彼は、店を放たらかしてお寺のためにこうして歩いてゐるのだとそのバカ／＼しさを私に訴えたが、その口で、家の中をなめるように見廻し乍ら「未代先智の在家止住の男女タラントモガラハ、ココロヲヒトツニシテ阿彌陀佛ヲカクタクノミイラセテサニ餘ノカタヘココロヲフラズ、一心一向ニ佛タスケタマヘトマウサン衆生ヲバ、タトヒ罪業ハ深重ナリトモ、カナラズ彌陀如來ハスクヒマシマスベシ、コレスナハチ第十八ノ念佛往生の誓願ノココロナリ、カクノゴトク決定シテノウヘニハ、ネテモサメテモイノチノアランカギリハ、稱名念佛マウスベキモノナリ」

浄土和讃の改悔文の一節である。あまりにバカにしたやり方だつた。後でわかつたことだが、曾つて彼はお寺の金の一部を、遊興に費したことがあつた。それがどうしてバレたかと

## 私の好きな和服

山 崎 善

着物の地色でどんな色が好きかと聞かれたら私は即座に白と答える。街を通る御婦人にしても爽やかな純粋な白地の着物に心を惹かれるその氣品は他の色には見られない永遠の若さをたゞ又永遠に盛れる事のない色である。然しこの白地に配される模様や色彩によつては實に平凡なみにくいものになつてしまふものだ。白地特有の新鮮な美しさを保つ爲にも單純な朱の縞とか、こぼれ梅、源氏車、瓜葛蒲等の柄を配し近代化したアークセサリーとマッチして洋服等では眞以の出来ないエキゾチックな味がでるものです。又白地に限らず他の色でも調和の美によつてこの様なふんい氣が出る事を附記する。

別染笑鶴ゆかた

## 夏のおもいで

藍の香りも豊かにかみや獨特の良品が澤山揃いました御氣に召した柄で今夏も楽しく過しましょう

衣料品の店 かみや 平市二丁目256

## キットお氣に召す

当店獨特の

## 純ドライクリーニング

お急ぎの品は

平市田町 超スピードで

合名 白榮舎ランドリー

TEL661

## 芳賀他郷第一詩集

## 貴族

ジャン・デュビュフエ氏の『二重自画像』的世界にネオ・ダンディを追求せる書  
湯本町天王崎ネオダンディ社

¥35

## 下痢止め調剤

平

藥局

平市五丁目十二

古今の典籍  
現代文學の珠玉

岩波文庫・市民文庫  
新潮文庫・角川文庫

その他種各文庫版

## マルトモ書店

平四・TEL234

ブラザー  
トヨタ  
ジューキ

ミシン平代理店

現金・月賦

## 石川ミシン商会

平市二丁目八 電話/232

## 編輯手帳

石城のくには文化の育ちにくいところ、とゆうのが人々の通念のようです。本當にそうでしょうか。

地理的にも文化の交流に事缺く管はないでしように一体何故だろうと私は今までよくそのようなことを考えて来ました。

「人を警戒すればする程、どこか間が抜けて行くものですよ」とも云つた。『まあ物理的に云えば眼鏡を買つてかけた方が無罪ですな』『それはあなたにだつて云えるだろうさ』と云うのは、あなたの聲がお経にはもつてこいのいい聲だとうことで、少し、信者になり過ぎてゐる。私には、彼こそ近眼ではないかと思えるのだつた。彼には手のとどかない遠い教理を自分の身近さへ持つてくるやり方は、例のお札賣りの盗みとさしたる違いはあるまい。

そうしたことを考えると、私は業腹で、今でも視力を失ひつつある私の眼に、眼鏡をかけようとはしなかつた。

附記 その後『お知らせ』中にある位牌堂増築に關する件は取止めたつたようである。何をすることも先に立つ金が、焼石に水だつたとゆうことだ。

今度思い切つて小さな雑誌ではありますが本誌を發刊しようと思ひして一部の方々に御意見を伺いましたところ、到底不可能だと云う御言葉も相當ありましたが、この地方にももうやうな雑誌があつて然るべきだと力つけて下さる向も意外に多くありましたので非才も願ひます發行してゆきたいと念願したわけですが、困難な仕事とは初めから判つても居り、一部の不可能に身を切られるような思いなのですが、皆様の御指導を仰ぎながら何とかして育ててゆきたいと思ひます。幸に理解ある方々の御協賛や各商店の御援助によつて一層の勇氣が出ましたので、この分ならば月一回の刊行は可能と思ひますゆえ一生懸命にやつてゆこうと思ひます。どうぞ石城の人々の最もしたい雑誌として御力添え下さいますよう御願ひいたします。

本誌は本當に明るく住みよい、たのしい郷土をつくりあげるために各方面の方に執筆して頂きますが、内容は毎號模範替へしておめにかけたいと存じます。そして誰でも廉價で氣よく讀んで頂けるよう定價も二十圓とし、讀者の方々の

くすりの御用命は

## 瀬尾薬局

電平523  
平市才樋小路

外科  
内科

## 金成醫院

平市鎌田町  
電話八二六

の原稿も順次掲載して號を追つて内容を豊富にしてゆくつもりです御多忙中本誌の出資に當つて快く御執筆下さつた方々、御協賛いただいた方々、御援助願つた商店の方々に厚く御禮申し上げます。

尚かなづかいは原文のまゝ、にしました。最後に讀者の皆様へ、私達の郷土の文化のために、本誌の内容につきまして御氣付きの点、或は次號への御希望等を御面談でも直接御聞かせ下さいますように伏してお願ひ申し上げます。(悦子)

## 石城文化 創刊號

昭和二十六年五月二十日印刷  
昭和二十六年六月一日發行

編集人 眞尾悦子

發行人 眞尾悦子

印刷所 加納活版所

印刷人 佐藤武之

發行所 石城文化社



白鳥鑛泉

旅館 春木屋

電話湯本一二四番

旅館 喜樂屋

電話湯本二二七番

常磐線湯本驛下車自家車便あり

昭和二十六年六月一日発行 (毎月一回一日発行)

勤労百兩の歌

酒酒酒だよ  
湯本の百兩  
シヤクで箱取り  
呑むのじやないが  
可愛い彼の娘の  
ユクボに惚れて  
呑んでくだまきや  
ドント氣が晴れる

酒酒酒だよ  
五十圓で満腹  
百兩御座れば  
酔どれ天使

くされノレンにや  
みれんはあるが  
からのさいふが  
ドント氣にかゝる

酒酒百兩だよ  
おはいりよ兄ちゃん  
どうせ俺等は  
箱取覚さ

呑んで唄えば  
直ぐ夜は更ける  
明けりや炭竈で  
ドントハツパける



諸橋合名会社

代表社員 諸橋久太郎

平市 五丁目  
電話 九・九九・一三九・六三一

菖蒲の節句

が近づきました



前驛平

壽百貨店

定 價 廿 圓

石 城 文 化 第 一 卷 第 一 號

9294